

WAN×JUMP アーティスト・キュレーター クロストーク アメリカ滞在リサーチ アートの現場から

本トークイベントは、日本の次代を担うクリエイター等の挑戦を支援することを目的とした「文化芸術活動基盤強化基金 (Japan Creator Support Fund) 注」により行われている、2つのクリエイター育成事業の進捗報告会です。

メディアアート分野の「WAN: Art & Tech Creators Global Network」(以下「WAN」)と、現代アート分野の「JUMP アーティスト+キュレーター国際協働プログラム」(以下「JUMP」)では、若手アーティストやキュレーターの海外派遣や、海外での制作準備から発表の機会を支援しています。

本イベントは、WANとJUMPに参加する4名の育成対象者が、プログラムを超えて、海外での活動の知見や課題を共有することを目的として開催します。アメリカでのリサーチの様子や、それぞれの活動について紹介するとともに、滞在をとおして感じたアメリカのアートを取り巻く環境等について語り合います。



WANからは、キュレーターでありアクセシビリティ研究者・社会福祉士でもある田中みゆき氏が登壇。2025年10月から約1か月にわたり、ニューヨークを中心に、ボストン、デンバーなど、アメリカの複数都市でテクノロジーを用いたアクセシビリティに関するリサーチを行いました。

JUMPからは、アーティストデュオMES（新井健氏、谷川果菜絵氏）と、キュレーターの塚本麻莉氏（高知県立美術館 主任学芸員）が登壇。2026年度中にロサンゼルス現代美術館（MOCA）のゲフィン・コンテンポラリーで新作パフォーマンス作品の発表を予定しており、その準備として2025年6月にロサンゼルスでリサーチを行いました。

情勢が大きく揺れ動くアメリカ各地で、それぞれが体験し、学んだこと、そして今後の創作・表現活動に向けたアイデアを共有します。参加者との対話も交えながら、国際的な活動の可能性や意義について理解を深める時間となることを目指します。

注：文化庁の補助金によって独立行政法人日本芸術文化振興会に設置された文化芸術活動基盤強化基金 (Japan Creator Support Fund) では、日本の次代を担うクリエイター等の挑戦を支援することを目的としたクリエイター育成事業を2024年から展開しています。本基金では、メディア芸術と現代アートのほかにも、マンガ、アニメーション、ゲーム、映画、舞台芸術等の各分野において、クリエイターが国際的な視野をもち、さらなるキャリアのステップアップを支援するプログラムを実施しています。

<https://creator.ntj.jac.go.jp>

X @JCSF_official

Instagram @jcsf_official



■ 開催概要

日時 : 2025年12月5日(金) 19:00~21:00 (18:40 受付開始)
会場 : 東京藝術大学 美術学部 藝大食楽部 (東京都台東区上野公園12-8)
定員 : 50名 (要事前申し込み、定員に達し次第受付終了)
参加費 : 無料
言語 : 日本語
アクセシビリティ対応 : 音声認識アプリ「UD トーク」による日本語・英語字幕あり
車椅子での入場可能

主催 : 文化庁、独立行政法人日本芸術文化振興会、公益財団法人 画像情報教育振興協会 (CG-ARTS)、
独立行政法人 国立美術館 国立アートリサーチセンター (NCAR)
協力 : 東京藝術大学芸術未来研究場
運営 : WAN: Art & Tech Creators Global Network
| 公益財団法人 画像情報教育振興協会 (CG-ARTS)
JUMP アーティスト+キュレーター国際協働プログラム
| 独立行政法人 国立美術館 国立アートリサーチセンター (NCAR)

■ プログラム

19:00 イン트로ダクション
19:15 WANからの報告「NYにおけるアクセシビリティとアートコミュニティ」
19:30 JUMPからの報告「LAのアート 制作のためのリサーチ」
19:45 ディスカッション・質疑応答
20:20 交流会
20:50 閉会

■ お申し込み

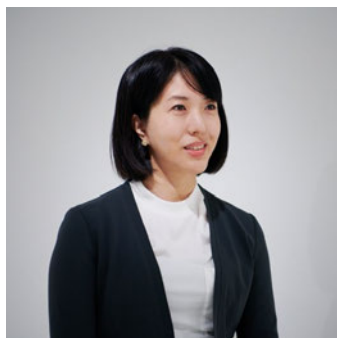
イベントへの参加をご希望の方は、以下の申し込みフォームからお申し込みください。

<https://forms.office.com/r/Sgif6Q2sk8>

■ お問い合わせ

独立行政法人国立美術館 国立アートリサーチセンター
JUMP事務局
メール : jump_ncar@artmuseums.go.jp

■ 登壇者



田中 みゆき キュレーター／アクセシビリティ研究者／社会福祉士

1980年大阪府生まれ。東京都拠点。「障害は世界を捉え直す視点」をテーマに、カテゴリーにとらわれないプロジェクトを企画。表現の見方や捉え方を鑑賞者とともに再考する。2022年ニューヨーク大学障害学センター客員研究員。主な仕事に、「ルール？展」(21_21 DESIGN SIGHT、2021年)、「音からつくり、音で遊ぶ。わたしたちの想像・創造を刺激する『オーディオゲームセンター + CCBT』」(シビック・クリエイティブ・ベース東京、2024年)など。主な書籍に、『誰のためのアクセシビリティ？』(リトルモア)、『ルール？本 創造的に生きるためのデザイン』(共著、フィルムアート社)がある。

<https://miyukitanaka.net>

 @miyukitanaka



MES (新井 健、谷川 果菜絵) アーティスト

新井 健 1991年千葉県生まれ。東京都拠点。

谷川 果菜絵 1991年北海道生まれ。東京都拠点。

2015年東京藝術大学在学中に結成。政治、災害、ジェンダーなど、さまざまな社会問題を主題とする芸術行為によって、既存の思想やシステムを新たな視点から問い直す。クラブカルチャーと現代美術を行き来しながら、光や熱を通して、世界の暗さを静かに、あるいは激しく照らすインスタレーションとパフォーマンスを行う。パーティー「MES presents REVOLIC - revolution holic／革命中毒-」をはじめ、演出・出演・オーガナイズと常にコラボレーティブで交差的な試みを探求している。

 @mesmesmes8



塚本 麻莉 キュレーター (高知県立美術館 主任学芸員)

1989年大阪府生まれ。高知県拠点。2014年東京藝術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻修了。2016年より現職。保存修復の知識を背景に、「残すべきものは何か」を問いつつ、会場ごとの地域性や特性をいかしたキュレーションを行う。高知県立美術館では、2020年に高知ゆかりの作家を紹介する個展シリーズ「ARTIST FOCUS」を立ち上げたほか、2022年に同県出身の美術家・合田佐和子の回顧展を企画。美術館外の企画にも積極的に取り組み、若手・中堅作家の自主企画展を多数手がけてきた。開催地の歴史や文化を踏まえた「この場所でしかできない表現」を重視し、作家の実践を土地の文脈に接続しながら世に問う活動が続けている。

 @m.tsukamoto117



WAN: Art & Tech Creators Global Network

公益財団法人画像情報教育振興協会 (CG-ARTS) が実施する、日本の有望なメディアアートクリエイター (アーティスト、キュレーター等) の海外展開を支援する育成プログラム。米国・ニューヨークでの滞在を通じて、展示・発表・現地でのネットワーキング等の機会を提供し、海外展開に必要な知識や経験を習得することで、グローバルに活躍できる人材の育成を目指す。

<https://www.w-a-n-art.net>

 @w_a_n_art  @w.a.n.art.tech  @w_a_n_art



JUMP アーティスト+キュレーター国際協働プログラム

国立アートリサーチセンター (NCAR) が実施している、日本の若手アーティストとキュレーターの国際的な活躍を支援する育成プログラム。海外3都市 (リスボン、ロサンゼルス、シドニー) にある美術館の協力のもと、日本の3組のアーティストとキュレーターが、数回にわたる海外滞在を重ね、リサーチに基づく作品制作に取り組み、その作品を各美術館で展示する。

<https://jump-ncar.artmuseums.go.jp>

 @jump.ncar